

# Nagato Life

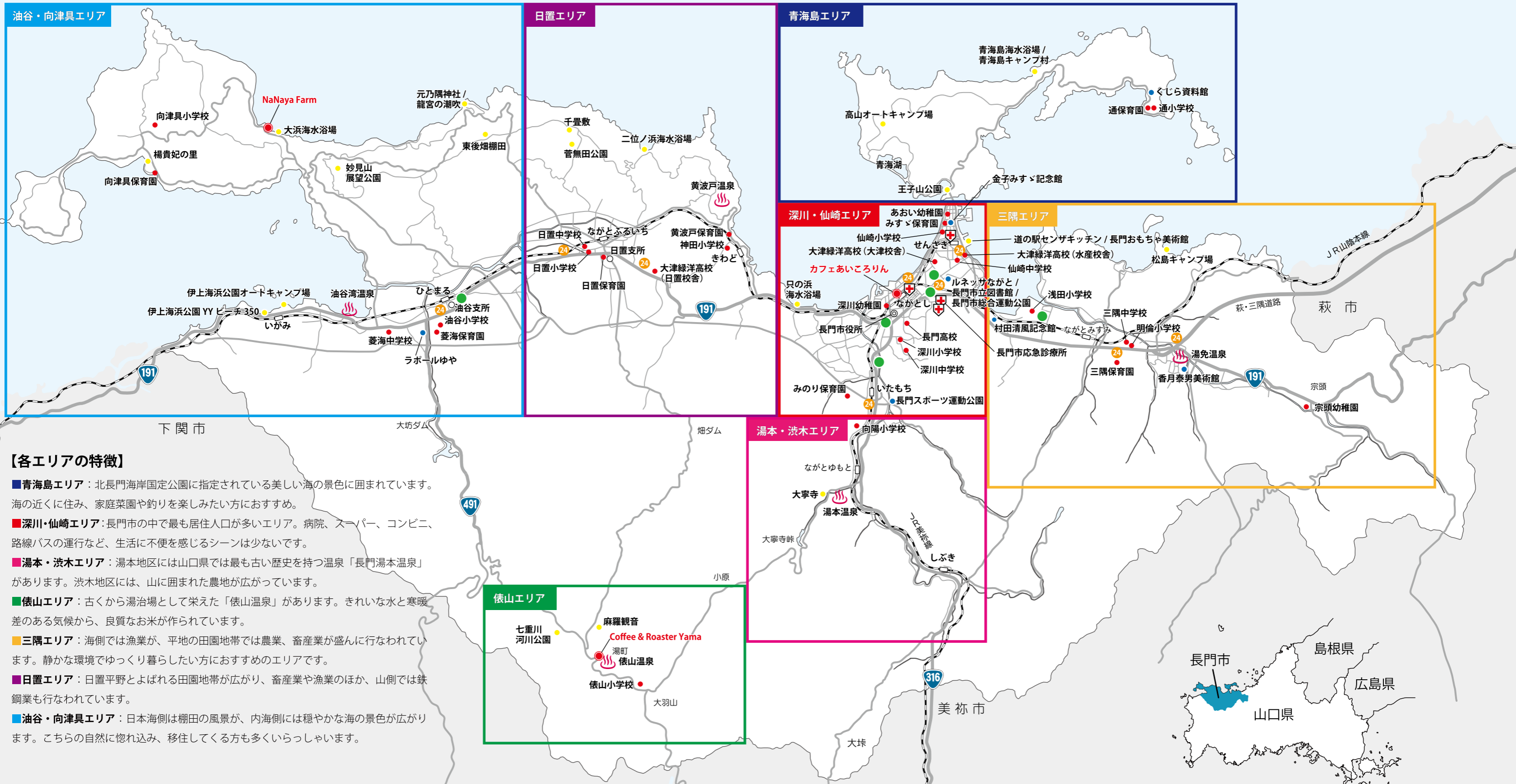
山口・長門でたのしい暮らし



City

# … 長門市 MAP …

- …保育 / 教育施設
- …スーパーマーケット
- …コンビニエンスストア
- ☒ …総合病院 / 応急診療所
- …観光 / プレイスポット
- …スポーツ / 文化施設



## 【各エリアの特徴】

- **青海島エリア**：北長門海岸国定公園に指定されている美しい海の景色に囲まれています。海の近くに住み、家庭菜園や釣りを楽しみたい方におすすめ。
- **深川・仙崎エリア**：長門市の中で最も居住人口が多いエリア。病院、スーパー、コンビニ、路線バスの運行など、生活に不便を感じるシーンは少ないです。
- **湯本・渋木エリア**：湯本地区には山口県では最も古い歴史を持つ温泉「長門湯本温泉」があります。渋木地区には、山に囲まれた農地が広がっています。
- **俵山エリア**：古くから湯治場として栄えた「俵山温泉」があります。きれいな水と寒暖差のある気候から、良質なお米が作られています。
- **三隅エリア**：海側では漁業が、平地の田園地帯では農業、畜産業が盛んに行なわれています。静かな環境でゆっくり暮らしたい方におすすめのエリアです。
- **日置エリア**：日置平野とよばれる田園地帯が広がり、畜産業や漁業のほか、山側では鉄鋼業も行なわれています。
- **油谷・向津具エリア**：日本海側は棚田の風景が、内海側には穏やかな海の景色が広がります。こちらの自然に惚れ込み、移住してくる方も多くいらっしゃいます。

## ■人口など

- ・人口：33,611人
  - ・世帯数：15,922世帯
  - ・面積：357.31 km<sup>2</sup>
- (2019年12月1日現在)

## ■気候など

- ・平均気温：16.1℃
  - ・最高気温：36.7℃
  - ・最低気温：-3.9℃
- (2018年気象庁発表データ)

## ■アクセス

- ・飛行機：羽田 空港～山口宇部空港(約 90 分)
- ・新幹線：JR東京駅～JR新山口駅(約 4 時間 30 分)
- ・車 1：山口宇部空港～長門市内(約 80 分)
- ・車 2：JR新山口駅～長門市内(約 60 分)



▲詳細は長門市観光サイト「ななび」へ

## 自然が育んだ豊かなところが根付くまち

長門市は本州の最西端・山口県の西北部に位置するまちで、東は萩市、南は下関市と美祢市に隣接し、北側には北長門海岸国定公園に指定されている美しい日本海の景色が広がります。美しい海はさまざまな海の幸をもたらし、古くから漁業、水産加工業で栄えたほか、水産加工の過程で発生する魚のアラなどを飼料に使い養鶏業が発展した歴史を持ちます。地域の方々にはこうした「自然の恵みへの感謝」、そして「ものを大切に作る心」が根付いています。

## 長門市のデータ

# 人生、Yamaあり谷あり

小坂保成さん



「Coffee&Roaster Yama」  
Facebook ページ



## ●静岡県→長門へ移住

小坂保成さんは2013年に静岡県から長門の俵山地区へ移住し、地域おこし協力隊として活動。任期終了後の2016年にコーヒーショップ「Coffee&Roaster Yama」を立ち上げました。そして現在、「Yama」は市内のみならず県外からも多くのお客さんが訪れる人気店で、妻・ゆかりさんが営む焼き菓子店「ユーカリとタイヨウ」と共に賑わいを見せています。そんな小坂さんに、移住と開業、そして俵山での暮らしによる家族の変化について、インタビューしました。

## どこで、どんな風に生きていくか

―移住を決めたのはいつですか？

東日本大震災の後、妻と話し合って移住を考えはじめ、2013年に僕と妻と息子の家族3人で長門市に移住してきました。

―長門に移住してから3年間は、地域おこし協力隊として活動されていますね

はい、移住先を探す中で長門の移住体験ツアーに参加して。その縁から俵山地区の地域おこし協力隊の募集に応募して、着任しました。

―俵山が気に入られたんでしょうか？

そうですね。ツアー中に俵山を回って、今の店の物件を見たときに「ああ、いいね！」って思ったんです。そして協力隊の仕事しながら妻のお店「ユーカリとタイヨウ」のために建物を改修して。その後、同じ建物に自分のお店のスペースを作っていました。僕のお店は協力隊の任期が終わった後にオープンさせています。

―お店をはじめたきっかけはなんですか？

長門に来る前は静岡県で公務員として働いていたんですが、その頃から「コーヒーのお店をやりたい」という思いがあったんです。妻は当時から焼き菓子店をやっていたから、一緒にカフェをやりたいと思っていて。それは移住してくる前から決めていたかな。

―コーヒーのお店をされるのが夢だったんですね

実は、お店は定年退職してからやろうと思ってたんです。でも今思えば、その歳になつてはじめても体力的にきつかったと思いますね。移住

## 家族の変化と将来への思い

―あらためて、今の暮らしはどうですか？

良いことも、そうでないことも色々ありますが、良かったコーヒーの仕事もできて、家族も元気がだから幸せですね。

―ご家族に変化は感じますか？

息子は俵山に移住する前までは、どちらかという引つ込み思案なタイプだったんですが、今は毎日、自然の中を駆け回って野生児そのものです（笑）。だから本当に俵山に来てよかったと感じています。お店に来たお客さんに「なぜ俵山なんですか？都会でもお店はできますよね」と聞かれるんだけど、人にはそれぞれ個性があると思うんです。

―俵山は相性がいいのでしょうか？

はい。僕は38歳で移住して、生活も仕事も全部変わって、生まれ変わったような気持ちで人生をもう一回スタートさせて、この地で「生かしてもらってる」と思っています。俵山の人たちをはじめ、市内や市外にもたくさん支えてくれる人たちがいて、本当に感謝ですね。

―その思いが実感できる暮らしなんですね

人って、必要とされるのがすごく大事だと思うんですよ。お店に来てコーヒーを飲んでくれる、豆を買ってくれる……そんな風に必要としてもらえることが本当に嬉しくて……ちょっといいこと言っちゃったかな（笑）

―今後、お店をどう展開していきたいですか？

今は「莫大な借金を抱えての事業拡大」なんかはあまり考えてないですね。自分のできる範囲で、続けられたらいいなと思っています。



▲息子さんは元気一杯！毎日俵山を所狭しと駆け巡っている



▲お店は俵山温泉街のそばにある。左のスペースが「Yama」で、右のスペースが「ユーカリとタイヨウ」

ざ県外から来てくれたりすることも多いです。

―純粋なファンが増えている？

はい。道の駅や市内のスーパーといった取引先で僕の焙煎した豆を買ってくれた方が「実際に店でぜひ一度飲んでみたかったの」って来てくれたり、それが嬉しいですね。

―逆に、大変なことはありますか？

俵山は、集客が天候にすごく左右されるんですよ。雨だったり雪だったり、道が通行止めになったり（笑）。だけど、開業してから売上げがゼロだったことは一度もなくて。これが本当にありがたいと思います。

―途切れることなく、お客さんが来てくれるんですね

俵山の人や、雪の日でも豆を買いに来てくれたりとかね（笑）。そうして暖かく見守ってくれる地元の人たちにも本当に感謝しています。付き合いってうだけじゃなくて、僕のコーヒーを純粹に楽しみにしてくれている人がいるから。

―これまでを振り返って、一番大変だったと感じるのはいつの時期ですか？

お店のオープン前後が一番きつかったです。「オープンまでに自分が納得できるコーヒーを作り上げなくてはいけない」というプレッシャーがしんどくて。今はおかげさまで豆の注文も増えてきて、すごく忙しいけれども、精神的なつらさっていうのはあまり感じないですね。……ああ、でも「仕事をやめて移住を断じた時」に比べたら……やっぱりどれも大したことないですね（笑）



▲小坂さんこだわりの自家焙煎コーヒー豆。焙煎、選別、袋詰めといった作業を一人で行っている



▲市内の道の駅やスーパーでも取り扱っている「Yama」のブレンドパック。その人気ぶりはすさまじく、焙煎が追い付かない時もあるのだとか



## 子どもを木と共に育てる「木育」

長門市は、木のぬくもりに触れながら子育てする環境を整える「木育」を推進しています。平成30年4月には道の駅「センザキッチン」内に木育の推進拠点として「長門おもちゃ美術館」をオープン。館内では100種類以上の木のおもちゃで遊ぶことができるほか、内装を木質化したキッズクルーズ船「弁天」も運行しており、森と海の魅力にたっぷりと触れることができます。



▲長門おもちゃ美術館



▲キッズクルーズ船「弁天」



## 子どもと遊べるおすすめスポット



長門市総合公園



小さな子どもから遊べるさまざまなアスレチック遊具が揃った公園です。芝生広場も整備されており、週末は多くの家族連れでにぎわいます。



ながとスポーツ公園

フットボール競技施設やジョギングコースが整備されている公園です。



千畳敷

青い海と空を眺めながら、広い芝生スペースで遊べるスポットです。



七重川河川プール

蛍が飛び交うほど綺麗な川の水を利用した、長門の夏の定番プールです。

### 子どもの急病

休日や夜間、子どもの急病でお困りの場合には「長門市応急診療所」で初期応急医療を受けることができます。また、医療機関との連携やドクターヘリ等の救急搬送体制により、高度な医療を担う三次救急医療にも対応しています。



長門市応急診療所

Children

## … 長門での子育て …



## 子育て環境

妊婦・乳幼児の健康診査や妊婦学級、育児学級などにより、安心して出産・子育てを行なう環境づくりと交流の場の充実に取り組んでいます。また、産前・産後サポートステーションを拠点に、産前産後の支援を充実させ、妊娠期から出産、子育て期までサポートしています。



### 保育サービスの充実

保育園・幼稚園・認定子ども園・へき地保育所を12園開設しており、さまざまな保育ニーズに対応するため、乳幼児保育をはじめ、延長保育や保育サービスとして要望の多い休日保育などを進めています。



### 地域子育て支援の充実

市内に子育て支援センターを7か所開設しており、子どもを遊ばせながら、子育ての相談や子育て仲間との情報交換をすることができます。また、放課後児童クラブや放課後子ども教室、病児・病後児保育を行なっており、共働き家庭でも安心な子育て環境が整っています。

気持ちよく、  
幸せに過ごしたい

芦田健介さん  
祐子さん



「NaNaya Farm」  
公式サイト

### ●カナダ→長門へ移住

芦田健介さんは妻の祐子さんと二人の子どもたちとともに、2017年にカナダから長門に移住してきました。2019年よりカフェ「NaNaya Farm」をはじめ、ご自身で育てた無農薬野菜を使った「体にやさしい料理」を提供しています。東京でサラリーマンをしていた芦田さんがカナダでの生活を経て、なぜ長門にたどり着いたのか？ スケールの大きな「移住ストーリー」を、健介さんと祐子さんの二人に聞かせていただきました。

### カナダからの移住

—カナダから長門に移住してこられたとか？

健介 そうですね。カナダのウィスラーという街に住んでいて。僕は広島出身なんですけど、カナダに行くまでは東京でサラリーマンをしていました。

—カナダに移住したきっかけはなんですか？

健介 当時、毎日満員電車に乗って通勤して、会社の中で気を使いながら働くっていう生活に疲れていて。仕事を辞めて、思い切ってカナダに行っただけです。山が好きで、スノーボードが好きだったから、その気持ちに素直になろうとしたんですよ。

—ウィスラーには何年ほどいらっしゃったんですか？

健介 僕は14年、祐ちゃんは11年ですね。僕らは向こうで出会って結婚して、子どもたちもそこで生まれています。

—カナダの暮らしはいかがでしたか？

健介 楽しかったですね。それに、向こうの人の暮らしぶりにすごく影響を受けました。仕事はしっかりとやりつつも、休むときはしっかりと休んで思いっきり遊んで。自分の人生を謳歌している様子がすごくよかったですね。

—向こうのライフスタイルが合っていたんですね

健介 はい、その中で気づいたのが、カナダの人って、食べ物や環境にすごく気を使っている。「体に良いものを食べよう」とか、「環境に配慮したものを食べよう」とか。自然と僕らもそういう暮らしになっていきました。

健介 ありましたね。農を中心に自給自足的な暮らしをしながら、育てたものを使って食事を出したいと思っていました。

—お店のメニューにはどんなこだわりがあるんでしょうか？

健介 自分たちで収穫した無農薬の作物を中心にしつつ、地域の農家さんのものも揃えたりして、とにかく「体にやさしいもの」を出すようにしています。調味料も化学調味料が入っていないものを使って、今はカレーと麺類を中心にしています。

—子育て環境として、長門はどうですか？

祐子 とてもいいと思います。海も近くて、子どもたちが思いっきり遊べるので。

健介 祐ちゃんがやりたかった畑ができて、すごくいいなと思いますね。そして、僕はサーフィンをはじめられたことが大きいかね。ずっとスノーボードやってきてたからどこかで板に乗りたいたんですよ（笑）

—最後に、これからの展望を教えてください

祐子 今は料理の提供が中心だけど、だんだん人が集まって、話しながら情報交換ができるコミュニティの場所になったらいいなって思っています。お互いの情報や良いところを交換し合って、みんなでどんな良い方向に向かえたら嬉しいですね。

健介 まず、自分と家族が気持ちよく幸せに過ごしていくっていうのをこれからも大事にしていきたいですね。そして、このお店の料理の魅力だけじゃなくて、僕たちのライフスタイルもお店を通じて伝えていきたいなとも思っています。



▲お店では主に自分たちが育て、収穫した野菜を使い「体にやさしい料理」を提供している



▲お店の外観。海を目の前にした宿泊施設「SEA BREEZE」の敷地内にある

が好きになってきたんです。本格的に家も探しはじめたら、いい場所を見つけれられて。  
—移住先を長門に決めた決め手はなんですか？

健介 決め手といわれると難しいですが、あえて言うならば「環境」と「人」ですね。「環境」としては、家の周りの雰囲気や見える景色がすごく気に入ったんです。

—では、「人」はどういうことでしょうか？

健介 家を探していたころ、地域のお手伝いや行事にも参加させてもらっていたんですけど、その中でいろんな人に出会って。その人たちが暖かくてとてもいい印象を受けたんですね。  
祐子 みんなすごく私たちのことを心配して、協力してくれましたよ。

健介 そう。当時、家を探していたんですけど、地元の人々が親身になって心配して、あちこち探してくれて。その時は収入がなくて、農家さんが仕事の手伝いとかも声をかけてくれて、助かりました。

—そんなことがあったんですね

健介 あと、先輩移住者の方々の存在も大きいですね。同じ世代の、子育て家族が多くて、同じように移住をして頑張っているのが心強かったです。みなさんともすごく気が合って、助け合いながら「なんでも楽しんでいこう！」っていう雰囲気があって、楽しいですね。

### お店と暮らしへの思い

—長門への移住の際に、「カフェをしたい」という思いは当初からあったんでしょうか？



▲芦田さん一家の農園では農薬を一切使わずに作物を育てている。畑の向こうには日本海のダイナミックな景色が広がっている



▲NaNaya Farmにはテラス席があり、海を眺めながらゆったりとくつろげる



## 自然がいっぱい！長門の遊び



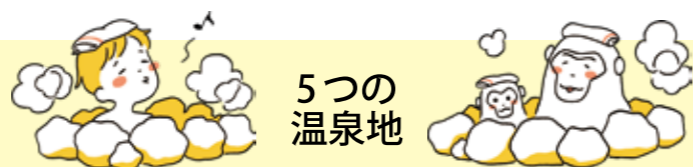
### マリレジャーを満喫しよう！

長門にはたくさんの「海の遊び方」があります。魚釣りや海水浴はもちろん、シーカヤック、SUP、サーフィン、ダイビングなど、コバルトブルーの海をフィールドに、思い思いのマリレジャーを堪能できます。その美しい景色に惚れ込み、移住を決意された方も多数いらっしゃいます。長門で暮らすなら海を楽しまない手はありません。



### もちろん陸上のレジャーも！

海だけでなく、里山での楽しみもたくさんあります。長門市内とお隣の美祢市の絶景を自転車で満喫する「ながとブルーオーシャンライド」や向津具半島の激しいアップダウンを走り抜く「JAL 向津具ダブルマラソン」といったイベントのほか、山道を整備した「ながとトレイル」コースなど、自然を活かしたレジャーが盛んに行なわれています。



長門市内には5つもの温泉地（長門湯本・俵山・湯免・黄波戸・油谷湾）があります。それぞれ違った泉質と効果を持ち、日帰り入浴施設があるため、「今日はちょっと温泉に入りに行こうやあ」と、気軽に温泉が楽しめます。



俵山温泉「白猿の湯」

## Enjoy … 長門を楽しむ …



## 長門の食べ物

県内屈指の水揚げ高を誇る仙崎港を中心に、「仙崎イカ」などの新鮮な魚介類や「焼き抜きかまぼこ」などの水産加工品が全国的に有名です。養鶏業も盛んで、朝にさばいたばかりの鶏肉が市内のやきとり店でふるまわれるなど、自然の恵みを存分に受けた食べ物が長門には溢れています。そのほかには、温暖な気候で育った肉質の良い「長州ながと和牛」、通常のオクラの3倍もの粘りを持つ「白オクラ」、まろやかな酸味と果汁の多さが特徴のオリジナル柑橘「長門ゆずきち」など、独自ブランドの食材がたくさんあります。



長門やきとり



仙崎イカ



仙崎かまぼこ



長州ながと和牛



白オクラ



長門ゆずきち

# あたらしい自分に会いたい

福永愛子さん



「あいころりん」公式ページ



## ●東京都→長門へUターン

福永愛子さんは2016年に東京からUターンし、JR長門市駅の駅前にてカフェ「あいころりん」を開業。お母さん、お姉さんと協力してお店を切り盛りしつつ、昨年結婚して幸せに暮らしています。「子育てママがくつろげるお店」として、主に市内の主婦から支持を得ているカフェですが、福永さんはお店以外にもいくつかの仕事で収入を得ています。自分の「やりたい!」という気持ちを原動力に果敢にチャレンジする福永さん。彼女の働き方についてお話を伺いました。

## 逆境に燃えるタイプ

「長門に帰ってきたのはなぜですか?」

地元の高校を出て東京の専門学校を卒業して、そのままテレビ番組の美術制作の会社で働いていたんです。大きな理由は、30歳を過ぎて「家庭を持ちたい、子どもを育ててみたい」という思いが芽生えてきたからです。仕事で作るもののクオリティは上がって、信頼を得て人脈も広がって、楽しくはあったんです。でも、同時に自分の「内面の成長」が当時の仕事ではもう伸びしろがないように感じて。

「その「内面の成長」が結婚や子育てにあると思っただけですか?」

はい。未知のことにチャレンジしたかったんです。「旦那さんや子どもと接して、家庭を守る」とか……当時の私にはそういったことが遠い世界だったんです。

「結婚や子育てを「挑戦」ととらえているのが面白いんですね」

基本、料理とか洗濯は苦手なんです。だからこそやってみたくなったんです。そこに飛び込んだ自分がどんなふうになるのか、見てみたくなって。

「そうしてUターン後に「あいころりん」を作り、ご結婚されていますが、お店を作ったきっかけはなんですか?」

本格的に長門に帰る前に、宮古島にしばらく滞在したことがあって。島にあった「子育てママさんたちが通うカフェ」がヒントになっていました。座敷でお母さんたちがくつろぎながら喋って、その周りを子どもたちが自由に遊んでるっ

ていう。

「「あいころりん」のコンセプトはそのお店が元だったんですね」

はい。「こういう店、長門にはきつとないだろうな……やってみようかな」って開業のことを調べはじめた。「私はお店を作る。料理はお母さんがやって、お菓子やパンをお姉ちゃんに作ってもらって……よし、長門に帰ろう!」って、勝手に決めて帰りました(笑)

「「お店をご家族ともやりたい」という気持ちもあつたんですね」

いえ、実はこれも私なりの挑戦なんです。私、「親と一緒になかをする」って、それまで考えてもみなかったし、そういうのを苦手に思ってたんです。嫌いってわけじゃないんですけど(笑)

「そこも「挑戦してみよう」と?」

はい。私、逆境に燃えるタイプなんです(笑) 厳しい環境で頑張ることが好きなんです。

「そうして完成したお店ですが、開店当初と現在を比べてどうですか?」

徐々に街に溶け込んで、「こんな風に子どもと過ごせる店があったらいいなって思ってたから嬉しい」とか、お客さんに言ってもらえることもあります。そんな時は嬉しくてちよっと泣きそうになりますね。

「自分が「いいな」と思っただけのものを受け入れてもらえるのは本当に幸せですよ」

はい。子どもとお母さんたちが楽しい時間を過ごしたり、学生のカップルがデートで使ってくれたり。そうしてみなさんの「楽しい思い出」に関わる空間が作れたことが「嬉しいな」って、思います。



▲「あいころりん」の座敷席。木の床が落ち着きを感じさせ、子どもと一緒にゆったりとくつろげる店になっているのが特徴だ



▲「あいころりん」のカウンターに立つ福永さん

## どんどん広がる夢

「福永さんはカフェ以外の仕事もされているそうですね」

筆文字が得意なので、それを活かしてテレビ番組の小物デザインやタイトル書きなどの仕事を自宅でやっています。ありもののフォントではなく筆文字が自分で書けるので、よく声をかけてもらえます。

「自宅での「テレワーク」ですね」

そうですね。ほかには地元ケーブルテレビ局のセットだったり、演劇の舞台セットを作る仕事もやりましたね。それに、最近は地域のお店のPC入力のお手伝いもやってたりします。

「そんな仕事もやってらっしゃるんですね」

はい。買い物に出かけたら知り合いが働いてるお店で呼び止められて、「パソコンとか詳しいよね?うちの店で困ってる、手伝ってくれないかな?」っていうところから(笑)

「意外な所から仕事が生まれますね」

はい。道を歩いてたら仕事をもらったっていう(笑) それがいい副収入になって、ありがたいんですよ。

「人間関係やスキルで、求人広告や雑誌に載らないような仕事を得ることがあるんですね」

それはあると思います。あの人はパソコンのことが分かる」って人づてに伝わって、そういうたきつかけで仕事をもらえることもあるから。やっぱり「知ってもらおう」と「人間関係を作る」ことって大事だと思います。

「今後はどんなビジョンがありますか?」

去年結婚して、次は子育てを視野に入れていき

たいので、自宅での仕事を増やしたいですね。

「今、挑戦していることはありますか?」

実は、自宅をゲストハウスにしたいと思っています。古民家なんです。今年の初めから住みはじめ、中をいろいろ改造しています。

「ゲストハウスをやりたいと思っただけはなんですか?」

「せっかく新しく古民家に住むんだから、いろいろやりたいな」というところからですね。「どうせだったら泊まれる部屋を作ってゲストハウスにしたい」とか、お姉ちゃんがお店用のお菓子やパンを焼いてくれてるんですが、「新しい家にパンを焼く場所が作れないな」とか、「家の前のスペースを使ってドッグランも作りたい」とか……夢がどんどん広がってます(笑)

「Uターンして、ご自身に変化は感じられますか?」

変わったと思うことはいっぱいありますね。まず、生活リズムは整って、自分のやりたいことに思いっきりチャレンジできるので本当に楽しいです。

「最後に、Uターンして感じた長門の魅力を教えてください」

「最後に、Uターンして感じた長門の魅力を教えてください」



▲現在、自宅をゲストハウスに改造中。大きな工事は業者をお願いし、ベッドスペースやパンを焼く施設などをDIYで制作している



▲学生の時から続けている書道を生かし、筆文字を使ったデザインの仕事も行なっている



## 滞在施設のご紹介

長門市では、移住を検討している方を対象に一定期間、市内の風土や日常生活の様子を体験してもらうための宿泊施設を用意しています。山間部の俵山地域にある「田舎くらしの宿『ゆうゆう』」と、海の近くで手つかずの自然が多く残る油谷向津具地域の「Country Life ログ『むかつく』」の2つがあります(いずれも自炊での生活となります)。

### ■田舎くらしの宿「ゆうゆう」



山間部に位置する俵山温泉街にある旧旅館を改装した施設。古くから湯治場として栄えた俵山温泉につかりながら、ゆったりと過ごせます。

#### 【宿泊情報 (料金は税込)】

- ・1泊：¥2,500 /名
- ・1週間：¥15,000 /室 (1室3名まで利用可)
- ・休憩：¥1,000 /名 (4時間単位)
- ・その他：お風呂はすぐ近くの俵山温泉共同浴場の利用となります (「町の湯」：¥450 / 「白猿の湯」：¥850)
- ・住所：山口県長門市俵山 5150
- ・TEL：0837-29-5070 (NPO法人ゆうゆうグリーン俵山)

### ■Country Life ログ「むかつく」



美しい海が目の前に広がる向津具半島内の施設。ログハウスとなっており、ちょっとしたリゾート気分が味わえます。

#### 【宿泊情報 (料金は税込)】

- ・1泊：¥3,000 /名 (4泊まで)
- ・5泊～13泊まで：¥15,000 /棟 (1棟4名まで利用可)
- ・14泊～1ヵ月まで：¥30,000 /棟 (1棟4名まで利用可)
- ・その他：1ベットあたり¥1,000、追加シーツ (¥500)
- ・住所：山口県長門市油谷向津具上 958-1
- ・TEL：0837-34-0868 (NPO法人むかつく)

## Information



### 長門のディープな情報はローカルメディア「ながとと」へ!

Webサイト「ながとと」では、長門の人、食べ物、文化など、地元の人でも知ってるようで知らないディープな情報を記事にして掲載しています。「日常」の目線から見た長門の様子をぜひ一度ご覧ください。



### 【移住・定住に関するお問い合わせ】

長門市役所 企画総務部 企画政策課

TEL：0837-23-1229 FAX：0837-22-0135

E-mail：chosei@city.nagato.lg.jp



▲長門市定住支援サイト

## … 長門のひと・こころ …

### 「うちの子」は地域のアイドル



子どもを連れて長門の街をお散歩すると、地域の方によく声をかけてもらえます。「あら、かわいい子がおるね!」、「おててを触らせてもらってもええかね?」……満面の笑顔でかまってもらえる赤ちゃん、その姿はまさに「地域のアイドル」のよう。こうしたコミュニケーションが自然なご近所づきあいにつながり、子どもの成長を地域ぐるみで見守る、昔ながらの「善意の目」が長門にはあります。家族だけでなく、近所の方、地域の方に楽しんでもらいながら、子どもたちは成長していきます。

### あなたの笑顔が見たいから



長門で暮らしていると、よく「もらいもの (主に食べ物)」をいただきます。「これ、魚釣ったけえ、食べえや」、「ウチの畑で採れた野菜あげるよ」など。なんでこんなに良くしてくれるの? 聞いてみて返ってきた答えは「あんたが喜ぶと思って」と実にシンプル。お互いの笑顔が見たくて、あげたりもらったり……この町の人たちはそんな気持ちで日々を過ごしています。



この景色の中で、一緒に暮らしてく。

